

授 業 目 名	聴覚心理学	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	2年（後期）
担 当 教 員 名	仲山 晃生	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>音響事象(物理的現象)が、ヒトの特性(心理的事象)により、実際にはどのように捉えられるのかについての基礎的事項を講義します。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>フォン、メル、ゾーンなどの用語の意味と解釈を理解する。雑音化での聞き取りや、ノイズの効果について理解する。音の物理量と、感覚の関係を理解する。</p>		
授業回数	授業内容		
第 1 回	聴覚閾値、痛覚閾値、可聴範囲, ラウドネス 音の大きさの物理的側面と心理的側面について		
第 2 回	フォン、等ラウドネス曲線 フォント等ラウドネス曲線の関係性について		
第 3 回	ゾーン フオンによる音の大きさのレベルはそのまま比例関係を表すものではない。その問題を解決するためにつくられたゾーンという単位について。		
第 4 回	音の高さ、メル尺度 周波数と音の高さの心理的尺度であるメル尺度について		
第 5 回	音の高さ、場所説・時間説 ヒトは音の高さをどのような仕組みで感じるのだろうか。そのメカニズムについて解説する。		
第 6 回	ミッシングファンダメンタル現象 周期のある複合音の感じる音の高さについて時間説との関係から詳細に解説する。		
第 7 回	前半まとめ① 第1回～6回で学習した範囲を復習し各自発表する		
第 8 回	前半まとめ② 第1回～6回で学習した範囲を復習し各自発表する		
第 9 回	マスキング 聞きたい音と雑音があるときヒトの聞こえの変化はどのようになるかを解説する。		
第 10 回	臨界帯域 雑音の帯域幅を変化させたときの同時マスキングはどのように変化するかを解説する。		
第 11 回	聴覚フィルタ 周波数分析の考え方である、聴覚フィルタという仮想的なフィルタの概念について解説する。		
第 12 回	両耳聴 音を両耳で聴いた場合、片耳で聴いた場合と異なった効果が現れる。様々なその効果について解説する。		
第 13 回	聴覚疲労 大音量を聞いた場合のヒトの聴覚のしくみについて解説する。		
第 14 回	後半まとめ① 第9回～13回で学習した範囲を復習し各自発表する		
第 15 回	後半まとめ② 第9回～13回で学習した範囲を復習し各自発表する		
評価方法	定期試験（100％）		
教科書 参考図書	〔教科書〕 言語聴覚士のための音響学(医歯薬出版)		
履修上の 留意点	授業前に、音響学の知識を復習しておいてください		
メッセージ	音響学も再確認しながら、国家試験の問題も解けるスキルを身につけられるように努めていきます		